

## 「ヘロデ王の死」

2024年02月29日

ヘロデ王は、ティルスとシドンの住民にひどく腹を立てていた。そこで、住民たちはそろって王を訪ね、その侍従ブラストに取り入って和解を願い出た。彼らの地方が、王の領地から食糧を得ていたからである。定められた日に、ヘロデが王の衣を着て座に着き、演説すると、集まった人々は、「神の声だ。人間の声ではない」と叫び続けた。するとたちまち、主の天使がヘロデを打った。神に栄光を帰さなかったためである。ヘロデは、蛆に食われて息絶えた。神の言葉はますます広まり、信者の数が増えていった。バルナバとサウロはエルサレムのための務めを果たし、マルコと呼ばれるヨハネを連れて帰って来た。

(使徒12：20～25)

ヘロデ王はパレスチナ地方を支配したヘロデ・アグリッパである。在位は37年～44年で、使徒たちが活躍したのと同時代である。ローマ皇帝から任命された領主であるが、「王」という称号を与えられていた。彼はファリサイ派の人々を支持し、ファリサイ派に嫌われていたエルサレム教会のヤコブを殺害し、ペトロも牢に閉じ込めた。ペトロは天使によって逃れたが、衛兵たちが監視の務めを果たせなかったとし、死刑を命じている。ヘロデ大王の孫で、ヘロデ大王に似て、横暴で非情な王であった。

ヘロデは、地中海に面したティルスとシドンの港湾都市の住民に対し激怒していた。怒りの理由は分からないが、おそらく、交易に関して、ティルスとシドンの住民がヘロデに不利益を与えたのであろう。ヘロデの激怒を知ったティルスとシドンの住民は恐れた。この恐れの原因は分かる。ヘロデの領土からは豊かな穀物が産出できた。一方のティルスとシドンは土地が少なく、農作物を十分に作るができない。大事な食糧はヘロデの領土から買い求めてきた。ヘロデの逆鱗に触れ、食糧の供給が途絶えると生活できなくなる。そこで、ティルスとシドンの住民たちはヘロデ王を訪ね、機嫌を取ることにした。その前に、侍従ブラストに取り入って、ヘロデとの和解の労を取ってもらうことにした。ブラストがヘロデと住民たちとの和解の労を取り、面会の場を設定してくれた。定められた日に、ヘロデが王の権威ときらびやかさを表わす王衣をまとして座に着いた。彼が演説を始めると、集まったティルスとシドンの住民たちは、「神の声だ。人間の声ではない」と、褒め言葉を叫び続けた。このように、ヘロデを持ち上げ、怒りを溶こうとしたのである。するとたちまち、主の天使がヘロデを打った。彼は蛆に食われ、見苦しい姿で息絶えた。神によって、命を奪われた。その理由は、神に栄光を帰さなかったためであると記している。彼の死の記述は神話的表現であるが、聖書のメッセージを強烈に伝えている。

モーセの十戒の第一戒は「あなたには、私をおいてほかに神々があってはならない」で、第二戒は「あなたは自分のために彫像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、また地の下の水にあるものの、いかなる形も造ってはならない。それにひれ伏し、それに仕えてはならない」である。聖書は徹底して、人や物を神とし、拝むことを否定する。地上にあるものを神とすると、その神々に支配され、奴隷となって、人間の尊厳を失うからである。ヘロデの急死は、偶像化への警告を、読者たちに訴えている。

諸教会の宣教活動は力強く、信者の数は増えていった。バルナバとサウロは、飢饉で困窮したエルサレム教会を支援する務めを果たし、マルコと呼ばれるヨハネを連れ帰った。マルコ・ヨハネはエルサレム教会からアンティオキア教会に移って来た。